

「制作実習」－復習問題(15).doc

氏名:

クラス:

今回は号外(的)ボイスン特集。ボイスンぐの最後までやっちゃう

## ★Melody Harmonize～その前に

まずは、

「制作実習」－復習問題(09).doc

★後期はヴォイスンぐを勉強しまくるにあたって－Voicing の出自にて示した以下の表を再確認

### Voicing 骨太の方針

・メロディライン ・カウンターライン ・伴奏形和声 ・ベースライン	①	ホモフォニー Melody Harmonize 'Comping	声部形	いわゆるクラシック和声とか
・メロディライン ・カウンターライン	②	Melody Harmonize	Sectional Writing	2 way, 3 way, 4way, Spread, 4th bluid, 、 Sharing, disonance pile, Cluster, 、
・伴奏形和声	③	'Comping	Mecahanical Voicing	2 way, 3 way, 4way, Spread, 4th bluid, 、
・伴奏形和声	④	'Comping	NonMecahanical Voicing	disonance pile, Cluster, 、
・ベースライン	⑤		ベーシストにおまかせ。	

メロディーハーモナイズとは、メロディーラインそのものをゴージャズに厚み付けする作業のこと。  
似てるっちゃー似てるけど伴奏'Comping とはそもそも発想が別なので、そこんところをまずは確認、しといて。。

## ★Melody Harmonize = Sectional Writing① (solo voicing)

まずは、1声から。。

って、1声でも Voicing なのか？ってことだが、。Voicing の前に Sectional Writing においては Non Chord Tone を素早く見抜くことがメチャ重要なんで、準備運動的にアプローチノート(ノン・コード・トーン)の分析用語を。

なぜなら⇒ハーモニーも同じように扱えるからね

### メロディの分析記号(コードトーン or テンションに対し)

S	スケールワイズ・アプローチ・ノート	scalewise approach note	スケールで行く
C	クロマチック・アプローチ・ノート	chromatic approach note	半音上 or 下から行く
CC	ダブル・クロマチック・アプローチ・ノート	double chromatic approach note	スケールから半音はさんで行く 上上 or 下下
DR	ディレイド・リゾルブ	delayed resolve	上下 or 下上の順に挟んで行く
CT	コード・トーン	chord tone	(tension は度数表記、dim7 の時は T と表記)

[問1]楽譜「(ホボ)森の熊さん」の上段にならって、下段にメロディ分析記号を記しなさい。

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

CT C CT CT DR DR CT S CT CT S CT CT CT S CT CT CT CC S CT

C Em/B Am C/G F Fm7 D° Bb7 C

# ★Melody Harmonize = Sectional Writing② (2 way soli voicing)

で、mここからが本題。

以下、メロディーの Sectional Writing⇒ソリボイシング (Melody Harmonize)

※ハーモニー部分はコードトーンまたはテンションを使うこと！が基本

■メロディーの3度下 (これが基本中の基本)コードに合わない時には例外的に4度下を使う

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

◎メロディーの6度上=(3度下のオクターブ上)

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

■メロディーの6度下=(3度上のオクターブ下)

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

◎メロディーの3度上=(6度下のオクターブ上)

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

■メロディーの4度下=(5度上のオクターブ下) 平行4度。第一次差音が上声のモーダル風。完全4度下 or 増4度下

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

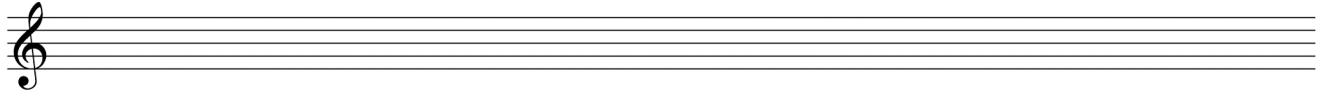
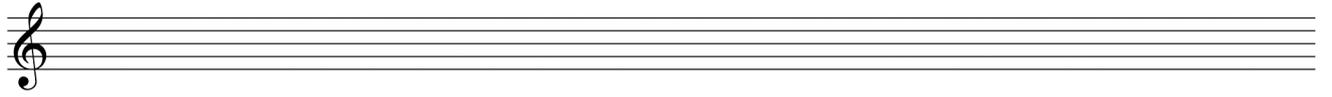
◎メロディーの5度上=(4度下のオクターブ上) 平行5度。ってパワーコード

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

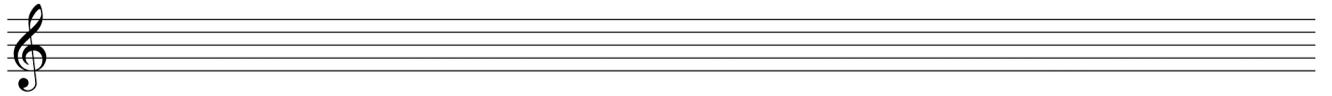
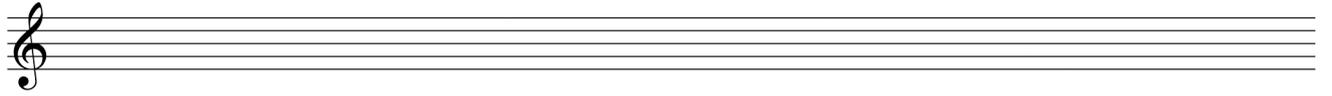
※メロディーの3・5・7度上のみ (主メロを弾かず3rdと7thで挟む5度音程を組み合わせるとこ〜んなかんじに)

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

[問2]任意のメロディと Chord Progression を記入し、3度下のハーモニーを付けなさい。



[問3]任意のメロディと Chord Progression を記入し、4度下の平行ハーモニーを付けなさい。



## ★Melody Harmonize = Sectional Writing③ (3 way soli voicing)

■メロディ&3度下 & オクターブユニゾン下

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

■メロディ&6度下 & オクターブユニゾン下

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

■【3way close voicing】(3声がオクターブ以内に配置されたボーシングで、3声の場合の基本)

原則①メロディがコードトーン⇒メロディの下に Chord Tone を配置。

原則②メロディがノンコードトーン⇒メロディ音をすぐ下のコードトーンとみなして同じように配置。

禁則①m2nd インターバルはキツ過ぎるんで避けとく。

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

■【3way drop2 voicing = drop 2nd】Open Voicing

3way close voicing の第2声部をオクターブ下に転回させたオープンボイシング。

(メロディパートを第2声部や第3声部にすると、ハーモニーが強調されちやったりして、それもヨシ)

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

〔問4〕任意のメロディと Chord Progression を記入し、3way close voicing で Melody Harmonize しないさい。

〔問5〕任意のメロディと Chord Progression を記入し、3way drop2 voicing で Melody Harmonize しないさい。

★Melody Harmonize = Sectional Writing④ (4 way soli voicing)

■【4way close voicing】(4声がオクターブ以内に配置されたボイシングで、4声の場合の基本)

※原則&禁則は3way と同じ

原則①メロディがコードトーン⇒メロディの下に Chord Tone を配置。

原則②メロディがノンコードトーン⇒メロディ音をすぐ下のコードトーンとみなして同じように配置。

禁則①m2nd インターバルはキツ過ぎるんで避けとく。

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

■【4way drop2 voicing = 4way drop 2nd】

4way close の第2声をオクターブ下に展開させたボーシング。

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

■【4way drop3 voicing = 4way drop 3rd】

4way close の第3声をオクターブ下に展開させたボーシング。

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

■【4way drop2 & 4 voicing】

4way close の第2声と第4声をオクターブ下に展開させたボーシング。

G7 C Cdim C F#° Dm7 G C G7

〔問6〕任意のメロディと Chord Progression を記入し、4way close voicing で Melody Harmonize しなさい。

〔問7〕任意のメロディと Chord Progression を記入し 4way drop2 & 4 voicing で Melody Harmonize しなさい。

# ★'Comp-③ (Tension を含む Open Voicing) Mechanical 4way+3

まずは

「制作実習」—復習問題(10).doc

★'Comp-② (Tension を含む Closed Voicing)

でやった 4way を下声部に置く。

で、

下声部(サクソ等の木管系イメージ)に、上声部(トランペット等の金管系イメージ)を重ねる方法

- ①下声部で使ってない Tension を入れる
- ②上声部の全体幅が1オクターブにする = 上声部のボトム音をオクターブ上に重ねる
- ③上声部内に4th インターバルを作る
- ④下声部のトップと上声部のボトムを1オクターブ以内にする

in C: M3, P5, M7, M9      m7, M9, m3, P5      M3, 13, m7, 9      m7, #9, M3, b13

└─IonianのAvoid=11th┐    └─AeolianのAvoid=b13th┐    └─DominantのAvoid=11th&M7th┐

3声を載せるってことは

上声部は転回形が2種類あるってこと。、以下、さっきの上声部だけ第1転回形

in C: M3, P5, M7, M9      m7, M9, m3, P5      M3, 13, m7, 9      m7, #9, M3, b13

└─IonianのAvoid=11th┐    └─AeolianのAvoid=b13th┐    └─DominantのAvoid=11th&M7th┐

よーするに、

その Chord からマザースケールを限定して、Avoid を外した後、下声部で使って無い2音を機械的に乗っけてく。ってこと。

[問8]Chord Progression を創り、4way+3 の Tension を含む Open Voicing を書きなさい。

# ★'Comp-④ (Tension を含む Open Voicing) Mecahanical 4way+4

「制作実習」－復習問題(14).doc

★リハーモナイズ⑩(Upper Structure Triad－1)

でやった

U.S.T.を4way Colesed の上に乗っけて、更に「上声部のボトム音をオクターブ上に重ねる」と。

in C: M3, P5, M7, M9      m7, M9, m3, P5      M3, 13, m7, 9      m7, #9, M3, b13

└IonianのAvoid=11th┐    └AeolianのAvoid=b13th┐    └DominantのAvoid=11th&M7th┐

4声を載せるってことは

上声部は転回形が3種類あるってこと。。(転回形は省略)

よーするに、ポリトーナルぢやないU.S.T.ってのは

その Chord からマザースケールを限定して、Avoidを外した後、下声部で使って無いトライアドを機械的に乗っけてく。ってこと。原則は同じ。

[問9]Chord Progression を創り、4way+4 の Tension を含む Open Voicing を書きなさい。

# ★'Comp-⑤ (Spread Voicing) Mecahanical+メロディライン風

「制作実習」－復習問題(10).doc

★Voicing 前夜、くどいよーだが構成音のマトメとして

にて示した

ペアレントスケール=key が示す構成音		Chord Symbol が示す構成音	
I	Tonic	1st	ROOT
IV	SubDominant	3rd, 7th	Guide Tone
V	Dominant	5th	Tension
VII	Leading Note	9th, 11th, 13th	
(II = Super-tonic, III = Mediant, VI = Sub-mediant)		(6th や Sus4 や Sus2 は付加音や待機音として別扱いね)	

この図。

この中の Guide Tone (3rd と 7th)、これを下声部のトップと上声部のボトムで挟んで、広げ Spread ちゃう。

基本は、下から 1-7-3-6-9 か 1-3-7-9-6

これが Spread の基本。

で、  
上声部の Tension を入れ替えることによって、サウンドの匂いを調整してく。

あとは、  
ボイスイング全体の幅 = 全体のトップとボトムの間隔が、広がったり狭まったりするよーに、調整するとバランスがよくなる。

※コントラリーモーションとパラレリズム

こーゆー、上声部と下声部が  
互いに接近したり離れたりを繰返しながら動くのをコントラリーモーション **contrary motion** っつって、  
'Comping の基本であり、コーダルの基本。  
反対に上声部と下声部が同じ方向に動くのをパラレリズム **parallelism** っつって、  
Melody Harmonize の基本であり、そのままモーダルへ接近しちゃったりする。

※下声部は R,3rd に置き換えてもいいけど、その場合には Low Interval Limit に留意すること。

で、結局

Spread は⇒「Root も Tension もぜんぶ入ったトータルなコードサウンド」ってこと。

ってことは、  
メロディがトップノートになるように Spread Voicing しちゃえば、

こんなかんじで、自己完結。

[問10] Chord Progression を創り、メロディをトップに置く Spread Voicing を書きなさい。



# ★'Comp-⑦ (Disonance Pile) NonMechanical Voicing

で、だ。  
 ここまで、意識して避けてきた不協和 Disonance インターバル。  
 その代表⇒最大不協和⇒b9thと Tritone

これを  
 意識して組み込むボイスンガーそれが、Disonance Pile！不協和なのにろまんちっく

規則性を作る為、Disonance Pile にも原則が

- ①Low Interval Limit に留意する
- ②Avoid を避ける
- ③なるだけ同じ音を重複させない

ってこと。

で、  
 使用時には  
 ◎Disonance Pile だけで連結してく  
 ◎終止の切れ目に嵌め込む

とかの  
 規則を開発すれば、十分“ポップミュージック”として成り立つ。

※マザースケールを設定して、Avoid を避けているところに注目

# ★Melody Harmonize = Sectional Writing⑤ (最終 Voicing = Cluster)

十二等分平均律 with コーダルの最終形 Voicing として、  
 the Cluster！を

Clusterとは、本来グチャ〜とした音群のことで、クラシックではペンデレツキ Krzysztof Penderecki の「広島犠牲者に捧げる哀歌」とか名作がいっぱい。

んだが、  
 ここでは、それを、平均律内のポップミュージックで使っちゃう。

で、  
 コーダルで活用する Cluster の原則

- ①Avoid を避ける

それだけ。

各 Chord からマザースケールを選択して、Avoid を避けて、最小3声〜最大7声を設定。  
 あとはメロディの下に、ひたすら密集させる。

ん〜単純だけど美しい！！

って、いろいろやってきたけど、結局、Voicing するのは⇒『マザースケールを設定して、Avoid を避けて、規則を作る』ってことだ！  
 hhhは一、あとは勝手に規則デッチあげて OK！仮説と検証を繰り返して自由になりやがれ